

かがやく花々

平和の子ら

学校法人平和学園
平和学園小学校
2016年度 学校だより 第14号
〒253-0031
神奈川県茅ヶ崎市富士見町5-2
Phone 0467-87-1662/ 0131
Fax 0467-87-0411
サイト <http://www.aletheia.ac.jp/s/>

年間聖句 (2016年度)

このようにしてキリストに仕える人は、神に喜ばれ、人々に信頼されます。
ローマの信徒への手紙 14章18節

平和学園の歩みに感謝して

校長 橘 明子

桜のつぼみが膨らみ始めるこの季節は、色とりどりの花が咲くであろう小さな芽が、木の枝で、庭先で顔を出します。寒い冬の間、小さな命は土の中で、じっくりゆっくり春の訪れるその時を待っています。

そのような春の暖かな日差しの中、平和の小鳩たちは胸を張って巣立って行きました。これからのゆく道も神さまと共に歩んで欲しいと祈り願った教師たちは、喜びに満たされた一日となりました。また、6年生から平和のバトンを受け取った下級生。バトンの重みをこれからの学校生活で感じ、心に刻んでいくことでしょう。同じように大人の私たちも、6年生から渡された平和のバトンをしっかりと握りしめて、大切な歴史をつないでいきましょう。

今年度は70周年という節目の年、私たちは改めて歴史を考えてきた一年でもありました。平和学園小学校の子どもたちのリズム、空気なども含めて。まず、平和学園の学校の特徴は、幼小中高全体の子どもたちがそれぞれの年齢において主役であるということです。子どもが主役という学校生活も、永い歴史の中で受け継がれている一つです。

小学校では、毎朝の礼拝で奉仕委員が中心に礼拝の準備（礼拝のホールを整える、司会、奏楽など）をしています。司会の奉仕をする子どもたちも聖書を読むことや祈ることがスムーズにいかないこともあります。しかし、礼拝に集う子どもたちはじっと待ちます。心の中で応援しながら。その姿勢も受け継がれている一つです。

この毎朝の礼拝を小学校では大切にしています。その日の児童のピアノの速度に合わせて子どもたちの声響き、集められた一人一人と賛美する喜びを胸に一

日が始まります。先生方から聞く聖書のお話を通して、やわらかい子どもたちの心に少しずつ御言葉の種が蒔かれます。平和学園に集う子どもたちは、毎朝の礼拝で神さまから、心の扉をたたかれた経験を一度はしているのではなでしょうか。

このように考えると、やはり学校の歴史の中心はキリスト教の教えが土台となり、学校教育がなされていることを強く感じます。子どもの成長は、一足飛びに何かが大きく変わることはありません。イエスさまが、ユダに、ペトロに裏切られても信頼し、愛し続けて下さったように、私たちもどのようなことがあっても子どもたちの成長を信じ、じっくりゆっくり待つものだと思えます。このような姿勢も平和学園の歴史はその中で受け継がれてきたのだと、改めて心に刻みました。

今年度も子どもたちの学校生活においては、嬉しいこと悲しいこと、楽しいこと辛いことなどたくさんあったと思います。その姿を周りの保護者の皆様が温かく、時には厳しく関わり支えてきてくださいましたこと、感謝しています。

「あなたの御言葉は、わたしの道の光。

わたしの歩みを照らす灯。」

詩編119：105

これからの子どもたちの歩みが神さまと共にありますようにと祈ります。保護者の皆様には、今年度もたくさんのお支え、ご協力をいただきました。本当にありがとうございました。